

2021年度 第2回自治医科大学附属病院医療安全管理監査委員会報告書

1 日時

2022年2月16日(月) 16:00~17:00 Zoom 会議

2 監査委員

委員長 菱沼 正一(地方独立行政法人栃木県立がんセンター 理事長)
副委員長 大槻 マミ太郎(自治医科大学 副学長)
委員 内山 聖(学校法人悠久崇徳学園 常任理事
(公財)新潟県保健衛生センター 副会長
山口 育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)
遠山 信幸(自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長)

【敬称略】

3 自治医科大学附属病院出席者

管理者	佐田 尚宏(病院長)
医療安全管理責任者	山形 崇倫(副病院長)
医療安全管理部門責任者	新保 昌久(病院長補佐、医療の質向上・安全推進センター長)
診療録管理責任者	興梠 貴英(病院長補佐、医療情報部長)
医薬品安全管理責任者	今井 靖(医薬品・医療機器安全管理部門長)
医療機器安全管理責任者	川人 宏次(医薬品・医療機器安全管理副部門長)
医療放射線安全管理責任者	森 壘(医療放射線安全推進センター長)
感染制御部長	森澤 雄司(病院長補佐)
病院事務部長	篠宮 正巳

4 議事内容

1 自治医科大学附属病院医療安全管理について

① 2021年度目標と活動報告

資料に基づき、医療安全管理部門責任者から①について説明があった。

委員より以下の意見・質問があった。

- ・どのような活動に対して表彰を行っているのか、また、選出方法について質問があり、評価内容及び選出方法について確認した。
- ・画像診断結果の見逃し・見落としの件数、対応後のフォローの体制について質問があり、件数や専従医師による取組状況について確認した。

② インシデント報告件数及び報告内容

資料に基づき、医療安全管理部門責任者から②について説明があった。

2 今年度の取組事例紹介 ～JT-MAC 活動経過報告～

今年度新たにワーキンググループで活動を開始したモニターアラームコントロールチーム(JT-MAC)について、資料に基づき、医療安全管理者の看護師長から説明があった。

委員より以下の意見があった。

- ・テクニカルアラームの割合が低い病棟でもさらに改善できることがあるのであれば、病院全体としての目標%により近づけると思われるので、取り組みを全病院的に広げる際に、各

病棟の目標設定が必要ではないかの指摘があり、実施の際の目標設定についてさらに検討することとした。

3 高難度新規医療技術の導入及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供体制について

～病院機能評価機構からの助言を受けて～

画面共有した資料に基づき、高難度新規医療技術の導入については、医療安全管理部門副責任者から、未承認新規医薬品等を用いた医療提供体制については、医薬品安全管理責任者からそれぞれ説明があり、今後の体制について確認した。

4 2021年度高難度新規医療技術の導入及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供について

- ① 高難度新規医療技術の申請及び審査状況
- ② 特定診療の申請及び審査状況
- ③ 未承認新規医薬品の申請及び審査状況
- ④ 適応外医薬品使用の申請及び審査状況
- ⑤ 未承認新規医療機器の申請及び審査状況
- ⑥ 適応外使用医療機器の審査体制について

各担当部門責任者から申請状況について説明があり、適正に行われていることを確認した。

5 自治医科大学附属病院における新型コロナウイルス感染症対策について

感染制御部長から、県内及び当院における取組状況について報告があり、感染症対策だけでなく、地域に根差した高度急性期医療機関として医療の提供に引き続きの取り組んでいることを確認した。

6 その他

特になし

【講評】

- 医療安全に関してきちんと対処されている。病院機能評価で評価が低い部分があったとのことであるが、それに対してもすでにきちんと対応されており不安はないと感じている。これからも、他院の手本となるような医療安全体制を構築していただきたい。
- 医療安全については、ネガティブな評価が行われがちの中で、表彰などのポジティブな取組は、現場のモチベーションアップにつながると感じている。年に1度ではなく、定期的に評価していただくとより職員の意識向上につながるのではないかと。
- 貴院はフットワークがいい意味で非常に軽く、感心している。病院全体として、現場の声や動きに注視され、また耳を傾けておられ、現場のやる気向上につながっていると感じている。これからも、現場のスタッフの耳に傾けて、ポジティブに捉えて取り組みを進めていただきたい。
- インシデントレポートの医師及び研修医の割合を増やす取り組みを、引き続き行っていただきたい。研修医に働きかけるだけでなく、上級医が背中を見せることで、お互いに件数を増やしていければよいと考える。
- 医療安全に関する様々な努力によって、患者側にどのような効果が出てきているかの報告が少ないと感じているので、次回以降患者動向についてもご報告いただければありがたい。
- 全体及び医師のインシデント報告数については、まだ伸び代があると考えているので、取り

組みを継続していただきたい。

- JT-MACについては、取り組みの成果がでたようであるが、取組を始めた当初は成果が出て、時間が経つと元に戻ってしまう傾向が自施設でもあったため、継続的な取組と働きかけをお願いしたい。